



京都市文化観光資源保護財団

会報

No. 42



もくじ

京のよさをまもって(5)「京の町並み」

京都市風致課景観係長 立入慎造 P 4

わたしと京の文化財(11)「京都の古面修理」

京都文化短期大学教授 中村保雄 P 6

目で見える京の文化財 No.12「大文字五山送り火」 P 8

古い寺に住んで〈19〉 壬生寺住職 松浦俊海 P 10

京のみちを歩く〈2〉 「嵯峨野」 P 11

京の伝統行事芸能 ⑤ 「久多花笠踊」 P 12

保護財団の活動 P 14

会報題字
表紙

理事長 佐伯 勇
大文字五山送り火「船形万燈籠」

会	報
No. 42	60. 6. 25
編集・発行 財団 京都市文化観光資源保護財団 法人 京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内 〒606 電話 075-752-0235 (代)	

募金にご協力いただき ありがとうございました

寄付者芳名録（敬称略） 59.11.16～60.3.30

—法人及び団体の部—

〔特別会員〕

※三井信託銀行株式会社 <1,400万円>
 ※住友信託銀行株式会社 <1,300万円>
 ※三菱信託銀行株式会社 <1,290万円>
 ※安田信託銀行株式会社 <900万円>
 ※南海電気鉄道株式会社 <700万円>
 ※株式会社 京都新聞社 <680万円>
 ※財団法人 不審庵 <380万円>
 ※日本信託銀行株式会社 <375万円>
 ※株式会社 村田製作所 <253万円>
 ※ギオン・コーナー <250万円>
 ※近畿急便株式会社 <225万円>
 ※岡秀株式会社 <200万円>
 ※株式会社 都ホテル <160万円>
 ※任天堂株式会社 <100万円>
 ※永和化成工業株式会社 <60万円>
 ※旅館 丸家 <55万円>

〔普通会員〕

※株式会社 じゅらく本社 <40万円>
 ※菱屋株式会社 <28万円>
 ※京阪コンクリート工業株式会社 <24万円>
 ※旅館 松葉亭 <13万円>
 ※株式会社 曾根商店 <12万5千円>
 ※伸和建設株式会社 <10万円>

〔賛助員〕

※株式会社 サカノシタ <7万5千円>
 神霊館 榎本書店 <1万円>
 株式会社 三和銀行京都支店 <2千4百拾2円>

—社寺の部—

〔特別会員〕

※醍醐寺 <500万円>
 ※寂光院 <103万円>

—個人の部—

〔特別会員〕

※安田守男 <200万円>
 ※伊砂利彦 <140万円>
 ※田中清 <100万円>
 ※田中長兵衛 <40万円>
 ※梅岡大祐 <31万8千円>
 ※山崎きぬ <25万円>
 ※竹村實 <20万円>
 ※福井忠明 <17万7千2百拾1円>
 ※丸山未棹 <16万5千円>
 ※川崎武雄 <14万円>

※池田詰一夫 <13万4千円>
 ※天野和夫 <13万円>
 ※今井雅久 <13万円>
 ※井上嘉子 <12万円>
 ※竹内キミ子 <11万5千円>
 ※岡本保止己 <11万2千円>
 ※寺田克己 <11万円>
 ※奈良行博 <11万円>
 ※高橋一男 <10万4千円>
 ※黒川武男 <10万3千円>
 ※仲田直 <10万1千円>

〔普通会員〕

※今井栄一代 <9万円>
 ※原山喜子 <8万5千円>
 ※赤松ふみ子 <8万円>
 ※増田勇三 <7万8千円>
 ※嶋津峯真子 <7万6千円>
 ※都築久美子 <7万円>
 ※加藤雅一 <6万7千円>
 ※神崎順一郎 <6万7千円>
 ※奥崎一郎 <6万6千円>
 ※児玉誠 <6万4千円>
 ※粟村好太郎 <6万円>
 ※新畑忠正 <6万円>
 ※石川静江 <6万円>
 ※上田長雄 <6万円>
 ※小野初恵子 <5万1千3百円>
 ※岩佐静子 <5万円>
 ※大嶋真治 <4万7千円>
 ※甲斐幹一 <4万5千円>
 ※広岡一正 <4万5千円>
 ※内田和正 <4万2千円>
 ※辨官弘晃子 <4万1千円>
 ※松島浩子 <3万9千円>
 ※安田孝夫 <3万3千円>
 ※新庄英雄 <3万円>
 ※梅村良作 <3万円>
 ※中村通男 <3万円>
 ※中野豊治 <3万円>
 ※小田嶋弘 <3万円>
 ※関崎みのり <2万6千円>
 ※遠藤伊之助 <2万6千円>
 ※上田真一 <2万6千円>
 ※松嶋芳子 <2万5千円>
 ※西原寿子 <2万5千円>
 ※前田ふみ子 <2万4千円>
 ※青木文子 <2万3千円>
 ※木原滋 <2万2千円>
 ※田井四郎 <2万2千円>
 ※田村彰敏 <2万円>
 ※乗上繁一 <2万円>

※平野昭子 <2万円>
 〔賛助員〕
 ※近藤吉男 <1万9千円>
 ※盛田准子 <1万9千円>
 ※伊藤昭三 <1万8千円>
 ※山田順三 <1万8千円>
 ※野村幸三郎 <1万7千円>
 ※岩井貞三郎 <1万6千円>
 ※今井二郎 <1万6千円>
 ※小田嶋綾子 <1万5千円>
 ※小松好子 <1万5千円>
 ※金井利夫 <1万5千円>
 ※篠崎義雄 <1万5千円>
 ※奥村賢三 <1万4千円>
 ※小川幸次 <1万3千円>
 ※野村鉄治 <1万3千円>
 ※梶村ふみ子 <1万2千円>
 ※佐村伸一 <1万1千円>
 ※寺嶋英子 <1万1千円>
 ※手塚栄実 <1万1千円>
 ※西園浩育 <1万1千円>
 ※早崎卓郎 <1万1千円>
 ※宮崎 隼 <1万円>
 瀧野久太郎 <1万円>
 ※山下えつみ <1万円>

※山口猛彰 <8千2百円>
 ※澤村正子 <8千円>
 ※中山熙江 <8千円>
 ※五十棲熙江 <6千6百円>
 ※岡本直三 <6千円>
 ※池内俊夫 <5千円>
 ※米谷栄二 <5千円>
 ※渡邊智恵 <5千円>
 ※環直弥 <4千円>
 ※近藤サナエ <4千円>
 ※田尻正雄 <4千円>
 ※長岡満 <4千円>
 ※細川満 <4千円>
 ※渡辺楽 <4千円>
 ※古川正義 <4千円>
 ※福崎勲雄 <3千百円>
 青木紀雄 <3千円>
 貴瀬勝 <3千円>
 ※橋本貞造 <2千円>
 小笠原澄江 <1千円>
 石井清子 <1千円>

〔※印は、追加寄付の篤志者、寄付金額は累計額。なお、昭和60年3月30日以降の寄付者の方につきましては紙面の都合により今後順次紹介させていただきますのでご了承下さい。〕

京都の文化財をまもる

5億円募金にご協力を

—京のよさをまもるこの運動への参加を

あなたのまわりの方々にも呼びかけて下さい—

当財団では、現在5億円募金運動を全国的にすすめています。

京の四行事ははじめとする京都の文化財をまもる5億円募金を達成するために皆様も金額の多少にかかわらずご協力をお願いいたします。

○基金にご協力いただきます場合は、同封させていただきます納付書により

ご送金下さい。

募金その他についてのお問い合わせは、

当財団事務局まで

(075)752-0235(代)

京のよさをまもって(5)

京の町並み 立入慎造



山紫水明のこの山城盆地に都が定められて以来、京都の町は幾多の戦火や政変により、都市衰亡の危機にさらされてきた。しかし、市民の京都の町に対する叡智と愛着は、さらに豊かな都市環境を再生し、美しい町並みを創ってきました。国際的にも画一的な都市化が進行している中で、現代に息づく京都らしい伝統的町並み景観を、かけがえのない都市文化財として、京都市は地元の協力を得て、保全修景事業を進めている。これらの地域文化や生業に根づいた町並みの魅力を訪ねてみよう。

■門前町……八坂・産寧坂地区

八坂・円山公園の南端から清水・産寧坂にかけて、高台寺や八坂ノ塔などの由緒ある社寺が点在し、江戸末期から大正時代にかけての京町家などが、産寧坂や二年坂の石段、折れ曲った石畳の坂道、緑と土塀に囲まれた道に沿って建ち並び京情緒豊かなたたずまいを見せている。

ここでは、むしこ造りや数寄屋造りの店舗、本二階建て町家、門塀を構えた和風邸宅等、京町家の代表的様式が展開している。それぞれの店には、ひょうたんや竹細工、清水焼茶碗花器、京陶人形等、手工芸品が多く、伝統様式町家とも良く似合い、スーパー商法に対し、名店街の新鮮さを甦らせてくれる。

■お茶屋町……祇園新橋

霊峰比叡山に源を発する白川が鴨川に合流する新橋あたりに、バービルにとりかこまれなが

らも、この一画は、洗練された美しいお茶屋の町並みが守られている。ここは、祇園の中でも最も由緒が古く、祇園内六町のお茶屋町として開かれた所。江戸末期から明治にかけて、芝居や芸能と深く結びつき、今日の町並みが形成された。白川の水の清さと伝統芸能の鋭い感性により、京町家がさらに洗練され、繊細なべんがら格子、駒寄せ、二階のすだれを透した手摺格子などに、祇園の艶やかさが演出されてきた。白川沿いの桜も、石畳を散策する人に祇園の春を詩い、「都をどり」もたけなわとなる。

■街道門前町……嵯峨鳥居本

京の西郊、愛宕山の麓、奥嵯峨に茅葺きの破風と朱色の鳥居が、山峡の緑を背景に絶妙のコントラストを描く町並みが残っている。ここは、愛宕さんの月参りや丹波方面への往来に一服する憩いのシンボルゾーンであった。この愛宕街道の中ほどには化野念仏寺があり、上地区では、茅葺きの農家風建物が、下地区では、いぶし銀の瓦葺き町家が軒を深くし、樹々の緑の間を縫って連なり、丁度、京の町文化と農村文化との結節点として町並みができている。地区中心付近では、茅葺きと瓦葺きの棟が合体した角屋造りの建物も珍しい。日中の観光客の集団が通り過ぎ、しばし日暮れ時の静寂に本来の街道集落の美しい町並みの生気を感じる。

■近代京都の顔……三条通(寺町～室町)

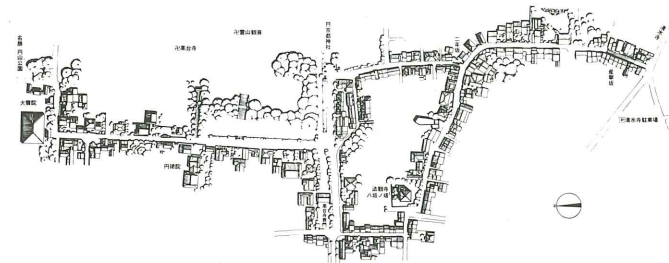
三条通りは、東に東海道五十三次の終点三条

大橋に通じる。かつてのメインストリートであったこの通りには、赤いレンガ造りや白い石造りの洋風建築、しっくい塗りで塗り込めた明治商家が点在し、性急な明治の近代化の歴史が読みとれる。明治大正の道路拡巾・市電敷設に際し、メインストリート故に現状を固持した。レンガ造りの旧日本銀行京都支店は、重要文化財の指定を受け、博物館として保存活用され、京都旧中央郵便局は中京郵便局となり、外壁保存内部改築により機能更新した。石造りの日本生命三条ビルは、コーナーと東ウイング部分を保存再生し、一階は画廊として親しまれている。三条通りでは、工夫をこらした外観保存の手法を展開し、文明開化の面影を継承し、さらに潤いのあ

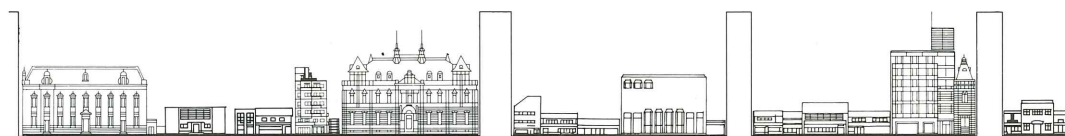
への整備が期待されている。

入浴観光客年間3,800万人、都市人口150万人を包容する京都は、貴重な歴史的景観を保全しながら、都市機能の充実を図らねばならない。伝統的町並み景観の魅力から、町づくりの手法を探り、アイディアを出しあって新しい京都のまちを創っていききたいものである。

(京都市風致課景観係長)



一産寧坂伝統的建造物群保存地区一



一三条通り町並み景観一



一嵯峨鳥居本一之鳥居付近一



一新橋通り北側付近一



わたしと京の文化財 (11)

京都の古面修理

中村 保雄

京都府は、滋賀・奈良・福井・岐阜の各県とともに、多数の古仮面を保存している自治体の一つである。特に、京都市に限ってみても（名称の括弧内は所蔵点数）教王護国寺（17）・蘆山寺（1）・十輪寺（1）・本法寺（1）・妙法院（2）・知恩寺（4）・実相院（2）・下御霊神社（2）・松尾大社（1）・船鉾町（2）・凱施船鉾町（1）・占出山町（1）・鈴鹿山町（1）・綾傘鉾町（4）・壬生大念仏狂言（175）・嵯峨大念仏狂言（57）・千本閻魔堂大念仏狂言（53）・神泉苑狂言（122）さらに能楽諸家の所蔵面を含めれば実に多い。

これらの仮面もその性格によって、神体面・神事面・追儺面・芸能面などに分類することができ、なかなか幅広いのも他府県にみられない大きな特徴といってよい。製作年代は、古く平安時代から江戸時代にかけて、ほぼ千数百年にわたっている。とくに教王護国寺・十輪寺・蘆山寺・船鉾町・下御霊神社・松尾大社の仮面は、彫刻史研究の立場からみても大へん貴重な作品といってよい。ただ全体についてそれぞれが古いだけに、現在では破損や損傷のひどいものもみられ、保存上心配される作品も多い。このうち壬生・嵯峨・神泉苑・千本閻魔堂の狂言面は、毎年の大念仏狂言に使用し、一般に公開し

ているので消耗も甚だしく、修理の急を要するものがとくに多い。

ところで古面修理という仕事は、なかなかむづかしい。国指定の美術品を修理する美術院という機関はあっても、そこでは彫刻なら仏像が主な対象であって、仮面修理までは殆んど及んでいない。といって仮面を製作している人であれば、誰に依頼してもよいということにはならないのである。現在、“能面作り”はブームといわれ、それを趣味とする人は全国に2、3千人いるといわれている。しかしその中で、専門能楽師の使用に堪えうる能面を製作できる人、いわゆるプロの作家は十指にもみえないといってよい。そのプロ集団の一つに面生会がある。この会は、昭和30年頃から会員相互が連絡しながら自らの実力を磨きつつ、新作を製作するだけでなく、古面修理の研究を続けてきた。その結果、10年ほどで重要文化財・重要美術品といった国指定の古面の修理も可能になっている。

すでに昭和40年代に入ると、面生会の存在も



このたび修理された神泉苑大念仏狂言の鬼面。写真は、左 修理前 右 修理後。

その道では知られるようになり、各個人が能楽諸家の修理を引き受けていた。ところが、会として初めて依頼されたのは「壬生大念仏狂言講」からの新調と古面修理である。それはたまたま壬生寺が、京都府社寺等文化資料保全の補助事業として援助を受けられることになったからであった。新調といっても、保存されている古面の模作面が主であるが、なかには講の求めに応じて創作した仮面もある。一方、修理の方は彩色の剥落や浮きの押さえ、また一部の素材の欠損、時には本体が二つに割れている場合もあって、かなり困難なものもあった。それに作品が古いだけに、その時代の古びをどうするかが大きな問題である。いずれにしても、それらを克服してきた。補助事業もその年度より15年間続けられ、現在では新調30面、修理61面と多きに及んでいる。

一方、昭和59年度からは神泉苑狂言でも同様の事業が始まった。壬生と同じく京都府社寺等文化資料保全費ともう一つ京都市文化財保護事業費の援助によるものである。とくに、後者は京都市の実施してきた神泉苑・嵯峨・千本閻魔堂の狂言（いずれも京都市登録無形民俗文化財）に対する実態調査の結果によるもので、神泉苑の第一年度分としては新調2面、修理8面分であった。本事業は一応5カ年計画を予定しているのでこれが完了すれば、かなりの点数が整備され、神泉苑大念仏狂言講にとっても喜ばしいことである。

ところで、京都府・京都市のように自治体が古面の新調、修理を援助するという体制は、わ



壬生大念仏狂言。狂言堂面の間にかけられた狂言面の数々。

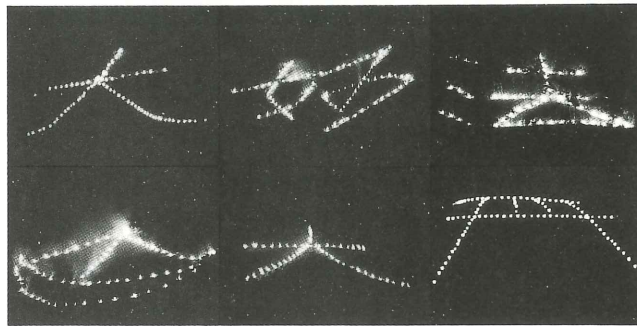
が国では他に例をみないといってよい。それだけに、このような補助事業制度が存在することは、われわれ住民にとって誇るべきことなのである。壬生・神泉苑といった現在実際に使用されている芸能面もそうであるが、冒頭にあげた諸社寺に所蔵されている古面もかなり損傷しているものが多い。また祇園祭関係の鉾町所蔵の古面修理も緊急の問題として考えてほしいと思っている。今後とも、補助事業がそこまで及ぶことを願ってやまない。

（京都文化短期大学教授・仮面研究家）

大文字五山送り火

8月16日 京の夏の夜空に浮びあがる大文字五山の送り火。精霊を送る盆行事として古くから地元の人々の信仰と苦勞により伝えられています。

今回は、京都の代表的な伝統行事 大文字五山送り火をとりあげ、各五山の準備風景や点火中の様子など一般によく知られていない姿を紹介します。



大文字五山送り火は、再び冥土に帰る精霊を送るという意味をもつ盆行事の一形態で、起源は仏教が庶民の間に浸透した中世で、室町時代以降であるといわれている。しかし、この行事がいつごろ誰によって始められたかについては、確実なことはわかっていない。文献上の記録としては、公家舟橋秀賢の日記「慶長日件録」の慶長8年(1603)7月16日条に「晩に及び冷泉亭に行く山々灯を焼く、見物に東河原に出でおわんぬ」という記述が初見である。



送り火の準備は、1月頃からすでに始まる。休日を利用して各山では、保存会の人達により山の下草刈り、山道の整備、火床の補修、松割木の準備がおこなわれる。(写真は、松ヶ崎妙法の下草刈り風景)



当日、早朝より山頂に資材となる松割木が運ばれる。



それぞれに特徴がある各五山の火床。



大文字



松ヶ崎妙法



船形万燈籠



左大文字



鳥居形松明

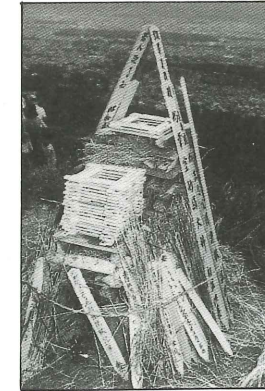


大文字の火床を受けもつ配置図。各山によって異なるが、ここでは火床は地元の旧家が担当し点火にあたる。

◀ 松割木を井桁に組み、約1メートルほど積み重ねられる。組み方は、鳥居形を除きほとんど同じである。



船形万燈籠の準備風景。若中、中老、年寄からなる昔の宮座組織が残っており、その人達が送り火行事に従事している。



▲ 写真は、大文字の金尾とよばれる親火床。先祖供養や無病息災など祈願する護摩木がみられる。

◀ 組み立てられた左大文字の火床。



写真は、各五山の様相
左上から大文字、松ヶ崎妙法、船形万燈籠、左大文字、鳥居形松明。



左大文字では、午後7時ごろ菩提寺である法音寺で護摩木が焚かれ、先祖を供養する法要が営まれる。そのあと親火松明1基と手松明に火がともされ、行列を組み山上へ向かう。



大文字では、山上の弘法大師堂でお灯明がともされ般若心経があげられる。



松ヶ崎妙法では点火後、涌泉寺において「さし踊」「題目踊」が地元の人々を中心に踊られる。



船形万燈籠では点火後、西方寺で、六斎念仏がおこなわれる。



古い寺に住んで 〈19〉

松浦俊海

地元の人々が長年呼びならわした通称や愛称を持つ社寺が多いが、当寺は昔から「みぶさん」と老若男女に親しまれてきた。991年に創建された壬生寺はあと6年で、1000年の記念すべき年を迎えるのである。

平安京建都1200年も近づいているが、都の中心であった朱雀大路の近くに建てられたこの寺は、お地蔵さまをまつて広く大衆の信仰を集めた。現代にもこの伝統は受けつがれ、老いも若きもが相集ういこいの場である。四六時中開放された14000㎡の境内には、35年前に設立した保育園をはじめ、ちびっこ広場や老人いこいの家があり、昭和56年には壬生寺創建1000年記念事業のトップとして、壬生老人ホームが開所し、50人のお年寄りが22名の職員の介護を受けて、やすらぎの毎日を過している。



重文本尊地蔵菩薩立像



壬 生 寺

(京都市中京区櫛ノ宮町31)

律宗の別格本山で地藏院、宝幢三昧寺といひまた心浄光院とも号する。

奈良時代に創建されたと伝えるが、正暦2年(991)三井寺の快賢僧都が地藏菩薩像を本尊として復興したことから小三井寺と称した。その後、火災にあひ正元元年(1259)に平政平が再興した。正安2年(1300)円覚上人が現在の壬生大念仏狂言のおこりといわれる融通大念仏を創始し、仏の教えを身振り動作に仕組んで誰にでもわかるようにしたことから庶民の信仰をあつめた。昭和37年再び火災によって本堂を失ったが昭和42年新本堂が再建され、重要文化財の地藏菩薩立像を本尊とする。壬生大念仏狂言が、毎年春、秋に公開されている。



壬生寺本堂

現在は京都市中京区と市街地のまん中になり、年々コンクリートの高いビルに囲まれようとはしているが、幸い土と緑に恵まれた環境と交通至便の条件がそろい、集まり来る人が多い。「壬生さん」と親しく呼ばれるゆえんである。

親子代々にわたり、大衆がこの寺とご縁を結んできた一つの理由は700年の歴史をもつ壬生狂言にある。鎌倉時代に壬生寺を大いに興隆された円覚上人が、仏の教えを説く方便として、誰にでもよくわかる身振り手振りのしぐさを取り入れた、ユニークな説法を考案された。これによって集まった信者が10万人をも数えたところから、世の人は上人を十万上人とあがめたという。以後上人の遺志を受けつぐ人はあとをたたず、一年も欠くことなく、今日の壬生大念仏講が壬生狂言を伝承している。昭和51年には、

国の重要無形民俗文化財に指定され、また舞台は特異な建造物の故に、昭和55年に重要文化財になった。現在この舞台は解体修理中であり、昭和61年3月に完成する迄、4月の狂言は仮舞台で公開されている。30番の演目を持ち、「壬生さんのカンデンデン」と親しまれる壬生狂言は、長年にわたる保護財団の助成と講中の信念に支えられ、世相の変遷に惑うことなく、年々歳々受けつがれ演じられていくに違いない。

自動車屋の子であった昭和18年、この古い寺に小僧入りした私は、間もなく創建1000年の意義深い年を迎えるにあたり、奇しき有難い仏縁



壬生大念仏狂言と狂言堂

をしみじみ感じる今日この頃であります。

(壬生寺住職)

京のみちを歩く 〈2〉

《 嵯 峨 野 》

京都市全体が観光地であるといわれるなかでも、嵐山・嵯峨野の地域は名勝、旧蹟、有名社寺に恵まれ、地域別調査の結果でも訪問率第1位を占めている。

春秋の渡月橋から眺める大堰川の流れと小倉山、平安時代の王朝文化、大宮人の遊び事(すさびごと)をほうふつさせる野宮神社や大覚寺、広沢池、平家物語で語られた哀話の数々を秘める小督局塚、祇王寺などまた釈迦如来像など国宝、重要文化財を豊富に蔵している清凉寺(嵯峨釈迦堂)、天竜寺、二尊院、楓樹の美しい化野念仏寺など書きあげればきりががない。近年市街地の拡大化によって嵯峨野あたりも開発されてきたといっても、まだまだこの地域には豊かな自然が息づいており、竹林や小柴垣の続く小径が残っている。丹念に歩けば、1日や2日でまわりきれないコースである。

—「京のみちを歩く」京都市文化観光局観光課発行より—



京の伝統行事芸能⑤

久多花笠踊

久多花笠踊は、久多に古く室町時代からうけつがれてきた風流の燈籠踊の一種である。この花笠踊は、燈籠を飾る花づくりにはじまり、久多の各町の集落が上の組と下の組に分かれ、それぞれ花宿と呼ばれる花笠づくりをする家を定め、和紙や灌木の芯などを使って、いろとりどりの造花（菊、あやめ、朝顔、ダリヤ、ばらなど）や切り絵をつくりあげる。このような灯籠（花笠）づくりは、近世に入ってから特に盛んになり、その技術も年々精巧になってきたようである。8月24日夜になると久多の男達は、この花笠をもって上ノ宮神社、大川神社をまわったあと最後の志古淵神社では、午後9時から花笠と踊りが奉納される。踊りは、室町小唄をしのばせる古風な唄にあわせ久多の男達が踊り子



となって、美しい花笠燈籠を手に持ち踊る素朴なものである。踊りの曲目は、地元の歌本によると以前は130曲にのぼったが、今日では道行、みちびき、綾の踊など10数曲が行なわれているにすぎない。

◇久多花笠踊 8月24日 午後9時 志古淵神社
（※バスでの日帰りは出来ません）



久多花笠踊 の継承 河原弥太郎

京都市の最北端三国岳の麓、安曇川の源流に存在する左京区久多地域は、上の町、中の町、下の町、宮の町、川合町の五町よりなり、その面積約34.38平方キロ、世帯数70戸、人口約200人、明治時代は500人近い人々をかかえたこともあったと聞いている。古く、室町時代から伝わる久多花笠踊は、久多地域の氏神 志古淵神社に豊作を祈願する神踊である。毎年5月初めの午の日に神社では午まつりの行事があり、このとき氏神に神主が地域の五穀豊穰の祈願をおこない、その御願ばらしとして奉納されるのが8月の花笠踊である。昭和20

年に豊作を祈願する神踊である。毎年5月初めの午の日に神社では午まつりの行事があり、このとき氏神に神主が地域の五穀豊穰の祈願をおこない、その御願ばらしとして奉納されるのが8月の花笠踊である。昭和20



神殿に百灯の献灯と共に供えられた花笠

年終戦前までは青年団の事業として、毎年8月14日より18日までお盆休みを利用して造花を製作し、23、24日花笠に仕上げた。当時は、上の組と下の組との二組が毎年交互に踊り、花笠踊も24、25日と二晩あった。昭和30年頃より、この久多にも過疎化が急激にすすみ、若者の都会進出とともに、久多の象徴である花笠踊の保存継承があやぶまれ深刻な事態に直面してきた。その頃から、我々村に残る壮年達が力を合わせ、保存会を結成することを決意し、踊りは8月24日の一晩に簡略されることを余儀なくされ、細々ながら花笠踊を保存継承していくことになった。

昭和48年に久多花笠踊が文化庁から記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財として選択され、その価値が広く認められた。我々地域住民として始めて、花笠踊の記録作成に国・府・市の補助金を受けることになり、この結果、立派な調査報告書の完成をみたことは保存会としても誠に喜ばしいことであった。また、京都市文化観光資源保護財団から毎年、補助を受けるようになったことは当保存会をますます勇気づけ、それ以後、花笠の製作に会員の意欲が出てきた事は確かである。現在は地域住民、老若男子がお盆休みに各町の花宿に集まり、造花に専

念しているためか年々その技術も向上し、近年は立派な花笠が出来るようになり、洛北の代表的な民俗芸能として注目を集めることになった。昭和58年には、京都市の無形民俗文化財の指定を受け、59年には花笠踊の舞台となる氏神 志古淵神社が京都市の文化財に指定されることとなった。また、59年度より3年計画で後継者養成のために毎月第二、第三土曜の夜、地元の青年会5名を中心に都会で就職している若者を呼び戻して歌の稽古をおこない、その成果もあがってきている。今後もこの伝統ある民俗芸能を次の世代に立派に継承すべく、総力をあげて努力する所存でございます。

（久多花笠踊保存会会長）



花宿でおこなわれる花笠づくり



久多花笠踊の舞台となる志古淵神社。京都市の文化財環境保全地区に指定されている。

保護財団の活動

— 第33回役員会の報告 —

去る6月5日 京都都ホテルにおいて第33回理事会、評議員会が開催され、昭和59年度事業報告・収支決算並びに役員の一部異動について審議され、原案のとおり決定された。
新役員は、次のとおりです。（敬称略）



井上嘉久新専務理事

専務理事
井上 嘉久（元 京都市選挙管理委員会
事務局長）

理事
阿部 常彦（日本国有鉄道大阪鉄道管理
局長）

理事
角田 寛（京阪電気鉄道株式会社社長）

理事
鈴木日出年（財団法人京都古文化保存協
会理事長）

昭和54年7月より当財団の常勤の専務理事として、募金活動はじめ事業運営などに大変ご尽力された竹村 實氏が去る5月末日で退任され、新しく井上嘉久氏が就任されました。

昭和59年度

文化観光資源保護事業補助金交付

文化財修理・伝統行事芸能など

108件に総額8,732万円を助成！！

昭和59年度文化財専門委員会において選定された文化観光資源保護事業に対し、第32回役員会の承認を得て補助金を交付した。

この補助金は、会員の皆様からの募金をもとにおこなっているもので、今回の補助金交付内

容は次のとおり。

1. 四行大対事に対する助成

9件 補助金 4,845万円

一対 象—

○葵 祭……………葵祭行列執行

○祇園祭……………山鉾巡行執行

山鉾修理（16件）

○大文字五山送り火……………五山送り火点火執行

……………火床整備事業（4件）

○時代祭……………時代祭行列執行

2. 文化観光財保護事業に対する助成

55件 補助金 2,853万円

○建造物の部 25件 補助金1,660万円

一対 象—

賀茂別雷神社末社百太夫社、日供門屋根修理工事等・宝慈院本堂屋根葺替工事・由岐神社御旅所神輿安置所及び神楽殿屋根修理工事・吉田神社大元宮中門屋根葺替及び東西廻廊丹塗工事等・広河原自治振興会観音堂解体移築修理工事・曼殊院玄関、唐門、唐門廊下屋根葺替工事・（財）関雪記念財団存古楼階段修理工事・安楽寺表門屋浪葺替工事等・霊鑑寺山門屋根葺替工事・下御霊神社末社大神宮本殿及び拝所屋根葺替工



— 勧修寺本堂—当財団の助成により2カ年にわたって修復された。

事・行願寺書院大玄関屋根葺替工事・神泉苑弁天堂屋根葺替工事・奥谷穆子（旧神先家住宅）主屋屋根葺替工事・八坂神社西楼門南北両翼廊朱丹塗替工事等・良正院本堂床下及び壁修理工事・円徳院長屋門修理工事・智積院絵馬堂屋根葺替工事等・正林寺本堂屋根葺替工事・勧修寺本堂屋根葺替工事・（財）藪内燕庵長屋門、雲脚、談古堂ほか屋根葺替工事等・大覚寺大玄関屋根葺替工事・玉龍院霊屋屋根葺替工事等・長福寺供待所修理工事等・醍醐寺報恩院本堂半解体修理工事・理性院本堂屋根葺替工事

○美術工芸品の部 14件 補助金 327万円

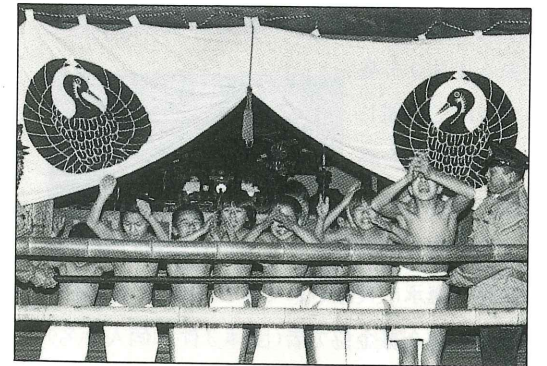
一対 象—

源光庵書院襖絵修理・御霊神社牛車解体修理・本久寺紙本墨画虎の図屏風修理・阿弥陀寺木造地藏菩薩立像修理・金戒光明寺阿弥陀堂壁画修理・禅林寺紙本金地著色山杉図屏風修理・寂光寺紙本金地著色四季図屏風修理・毘沙門堂使者の間障壁画修理・仁和寺宸殿障壁画修理・海福院書院襖絵修理・長恩寺木造十一面千手観世音菩薩ほか2軀修理・悲願寺墓地管理委員会木造地藏菩薩立像修理・荒木又一（薬師堂）木造薬師如来座像修理・善願寺本堂天井画修理

○防災施設の部 13件 補助金287万円

一対 象—

常照寺自動火災報知設備工事・大報恩寺消火栓設備工事・冷泉為任（冷泉家住宅）土蔵屋根葺替工事・建仁寺消火栓及び避雷設備工事・西来院消火栓設備工事・両足院消火栓設備工事・霊洞院消火栓設備工事・興雲庵消火栓設備工事・堆雲軒消火栓設備工事・久昌院消火栓設備工事・禅居庵消火栓設備工事・智積院防火用貯水槽埋設新設工事・吉祥院天満宮自動火災報知設備工



新しく当財団の助成対象となった日野法界寺の裸踊り。

事

○環境整備の部 3件 補助金 579万円

一対 象—

黄梅院境内西側土塀修理工事・御香宮神社表門東側築地塀修理工事・（財）京都古文化保存協会松毛虫駆除事業

3. 伝統行事、芸能保護事業に対する助成

44件 補助金 1,034万円

一対 象—

〔行事 13件〕

嵯峨お松明・賀茂競馬・藤森駈馬・糺の森流鏑馬・鞍馬竹伐り会・松上げ（3件）・鳥相撲・ずいき祭・北白川高盛御供・日野裸踊・鞍馬火祭

〔芸能 31件〕

蹴鞠・雅楽（3件）・念仏狂言（4件）・六斎念仏（11件）・やすらい花（4件）・久多花笠踊・八瀬赦免地踊・松ヶ崎題目踊・鉄仙流白川踊・紅葉音頭（2件）・大原八朔踊・番匠儀式

昭和59年度 伝統行事芸能功労者表彰

去る4月9日都
ホテルにて開催し
た第32回役員会終
了後、同席上にお



いて当財団で助成対象としている伝統行事芸能
の保存、継承に貢献されてきた功労者（16名）
と多額の基金募金協力者（団体3件・個人9名）
の方々に佐伯理事長よりそれぞれ表彰状、感謝
状並びに記念品が贈呈された。

受賞者は、次のとおり。（敬称略・順不同）

□伝統行事・芸能功労者

新田作兵衛（嵯峨お松明保存会）・石 孝彦
（京都舞楽会）・岡 正雄（京都古楽保存会）・平
井秀夫（神泉苑大念仏狂言講社）・黒田司郎（千
本えんま堂大念仏狂言保存会）・小畑善太郎（嵯
峨大念仏狂言保存会）・澤田 弘（千本六斎会）・
北村一男（嵯峨野六斎念仏保存会）・山下喜代造
（西方寺六斎念仏保存会）・中村佐一（川上やす
らい踊保存会）・河瀬嘉三（玄武やすらい踊保存
会）・東良 昇（上賀茂やすらい踊保存会）・小
阪源逸（久多花笠踊保存会）・中川増之助（松ヶ
崎題目踊保存会）・白川幸照（修学院紅葉音頭保
存会）・横山政二（番匠保存会）

□文化観光資源保護協力者

（団 体）

任天堂株式会社・財団法人有職文化協会・株
式会社山中工務店

（個 人）

今井雅治・平沢 興・奈良行博・水野弘三・
高橋一男・岡本保止・佐野綾子・飛田直一・
仲田 直

第42回 文化財特別参観のご案内

— 妙心寺塔頭 —

“^{てんきゅういん}天球院”と“^{りんしょういん}麟祥院”

今回は、妙心寺の塔頭で非公開の天球院
と麟祥院を訪ね、襖絵など中心に鑑賞いたし
ます。

回参観日時 昭和60年10月12日（土）

午後2時（参観時間 約2時間）

回対 象 者 財団募金協力者（会員）とその
家族

回申込方法 住所・氏名・年令を記入し、
返信用切手60円分を同封の上、
封書によりお申込み下さい。

回申 込 先 〒606 京都市左京区岡崎最勝
寺町 京都会館内

京都市文化観光資源保護財団宛

回参加費不用

※お問い合わせは、財団事務局まで。なお、
参加ご希望が多い場合、制限することが
あります。

編集後記



回当財団では、昭和57年より京都の文化財をま
もるための募金箱を京都市内各所に設置し、そ
の募金協力の呼びかけをおこなっておりますが、
現在までおよそ224万円にのぼる募金がござい
ました。事務局では、ご協力いただいた方々の
熱意に感謝するとともに、募金箱の設置に積極
的にご協力いただきました金融機関や京都府旅
館環境衛生同業組合をはじめ各旅館等に対しあ
らためて厚くお礼申し上げます。

今後とも、この募金運動の輪がますます広ま
り、多くの方々のご協力をいただけるようつと
めたいと存じますので、ご支援ご協力方よろし
くお願い申し上げます。

— 差別をなくして明るい社会をつくろう —